

第三者評価結果

事業所名：ポピンズナーサリースクール鶴見

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・全体的な計画はポピンズナーサリースクールの理念、保育方針や目標に基づいて編成されており、本社にて作成されている。園においては、子どもの発達過程、家庭状況や保育時間、地域の実態などを踏まえて内容を確認し、年度末に全体ミーティングにて見直しを行うようにしている。全体的な計画をもとに各クラスにおいて年間指導計画を作成し、それをもとに毎月のカリキュラムを作成している。作成後は施設長、主任が内容を確認し承認を行う流れとしている。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・ガイドラインに沿って快適な室内環境と衛生環境を整えており、室内の温度、換気、明るさなどの環境は常に適切な状態に確保できるよう努めている。玩具は昼と夕方に消毒を行い、保育室内の整理整頓や安全点検は毎朝、早番の職員がチェックシートを用いて開園前に確認している。手洗い場、トイレについても子どもの使用後に確認を行い清潔を保つように努めている。</p> <p>・保育室は年齢別に確保しており、柔らかな色使いを基調とし子どもが落ち着いて過ごせるように配慮している。年齢に応じた玩具の設定以外には、表現活動が十分に楽しめるように様々な道具や備品などを準備しているコーナーがあり、施設長が絵画指導を行う時間を設けることもあるなど製作物にも力をいれている。クールダウンが必要な場合はコーナーや別室で過ごしたり、保育士が個別に関わるなどの配慮をしている。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・入社前研修、配属後にも研修を行い、子ども一人ひとりを尊重した保育について学ぶ機会を持ち、言葉遣い等についても共有できるように取り組んでいる。気になることがあればリーダーからの指導や全体会議で研修を行い、振り返りができるようにしているほか、セルフチェックシートを年1回実施し確認できるようにしている。</p> <p>・子どもの主体性を大切に保育を目指し、保育室内の玩具は自分で自由に好きなものを出して、片付けもしやすいように高さや配置を工夫して設定している。乳児クラスでは、集団のなかでも一人ひとりの欲求や、生活リズムにあわせた援助を心がけており、子どもの状態に応じた保育が実施できるよう努めている。配慮が必要な園児等が活動へ参加できない場合の対応についてはミーティングで共有し、統一した援助を行うことができるように配慮をしている。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>・食事、排せつ、着替え、など基本的な生活習慣を生活のなかで身につけることができるように、年齢や発達に合わせて個別に伝えており、子どもの思いに寄り添いながら意欲を持って取り組めるように援助している。</p> <p>・朝の準備や帰りの片づけなどは2歳児クラス後半から導入し、声をかけて一緒に行うことからはじめ、3歳児クラスからは自分でできるように援助をしている。乳児のトイレトレーニングについても一人ひとりの状況に合わせて、家庭と相談しながら対応し無理なく進めるようにしている。年長児は就学に向けて昼寝時間をなくすが、活動内容や子どもの健康状態等に合わせて休憩時間を設けるなどの対応に努めている。年齢にかかわらず眠れない場合や目が覚めてしまっても、横になって休めるように声をかけたり、絵本などで静かに遊べるように援助をしている。</p>	

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・保育室内は子どもが主体的に活動できる環境整備を心がけており、絵本や玩具、製作活動などにも自由に取り組み、遊びが豊かに発展するような援助に努めている。雨の日は跳び箱、マット運動あそび、制作活動、ゲームなどでも遊び込めるように、また、幼児クラスで自由に素材や用具を使用できるような設定に工夫し、乳児クラスでは感触遊びなどで素材に触れることを楽しめるようになど、遊びを通して様々な体験ができるようにしている。</p> <p>・園庭、公園、遊具のある公園などの戸外遊びでは、活動のねらいに合わせて行先を選択しており、自然の多い公園へ虫眼鏡を持って出かけ、探索が楽しめるように工夫をしている。コロナ禍では夏のプールを行わず園庭で水遊びを楽しんでいる。4、5歳児クラスのお店屋さんごっこでは、話し合いながら商品やお店を考えて園全体の商品づくりを行なうなど、子どもが主体となり遊びが発展するような行事を開催している。</p>	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・0歳児クラスは入園面談に時間をかけて丁寧にヒアリングを行なうようにしており、子どもの発達や家庭について、また、好きなことや遊びなどについても事前に把握することで、楽しく元気に登園してもらえるように配慮をしている。慣らし保育についても保護者と相談しながら、できる限り多く時間をかけて丁寧に丁寧に行なうように努めており、保護者が安心して仕事に復帰できるように援助している。</p> <p>・0歳児保育室は温度や湿度、換気、安全に十分配慮し、年齢や発達に沿った玩具や絵本を設置し入れ替えも随時行っている。玩具では五感を刺激する遊びができるように、様々な感触の素材を用意している。入園当初はベビーベッドも使用し、子どもの発達に合わせて室内の設定を変更して過ごしやすい環境を整えている。保護者とはウェブ連絡帳で子どもの状況を細かくやり取りし、送迎時にも会話の時間を持つように心がけ、クラスだけでなく職員全体で関わるようにしている。</p>	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・身の回りのことに興味を持ち、自分でやってみようとする気持ちを育てるような声かけを心がけ、自分でやりたいという気持ちを受け止め、励ましながらかみつきなどが起こることを常に念頭に置きながら、安全に集団で活動できるように見守ることを徹底し、クラスの状況についてはミーティングで全体に周知している。子ども一人ひとりの思いを受けとめ、気持ちに寄り添いながら分かりやすい言葉で繰り返し伝えるようにしている。</p> <p>・クラスの様子や子どもの年齢に応じた発達については、懇談会でも詳しく説明し、保護者からの相談等にも応じている。個別の状況についてはウェブ連絡帳や送迎時に口頭でも共有し、年1回の個人面談においては、成長についてさらに詳しく共有できるように取り組んでいる。</p>	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・幼児クラスでは、集団の中で安定しながら、また、自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、適切な援助に努めている。夕方は幼児クラス合同で遊ぶ時間があり、ブロック、おりがみなどで交流することができている。</p> <p>・行事においては年長児が中心となることも多く見られており、少し難しいことに取り組んでみたり、また、合同保育では活動内容に工夫をしている。コロナ禍において、運動会は内容を縮小して乳児クラスと幼児クラスに分かれ、近隣公園にて保護者1名参加のうえで実施につなげることができている。去年までは保護者の参加はできず動画配信のみとなっていたため、大変喜ばれている。夏まつりは子どものみで実施し動画配信を行い、毎月の誕生会はオンライン配信をするなど、保育内容を保護者に見てもらえるように工夫をしている。地域の年長児交流会、ゲーム大会も実施することができている。</p>	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・特別な配慮が必要な子どもが安心して生活できる環境を整備しており、園内にはスノーザールーム(情緒安定用個室)があり利用することができる。子どもの状況に応じて個別カリキュラムを作成しクラスの指導計画と関連付けており、ミーティングで全体共有することで統一した援助にむけて取り組んでいる。個別カリキュラムでは、毎月のねらいと活動内容に応じた配慮事項、毎月の評価と振り返りの記載があり、次月の保育に反映できるようにしている。クラスの活動に参加できない場合などは、別室で過ごすなどの対応も行っており、その際には保護者にも状況を説明している。</p> <p>・療育施設を利用している場合には、施設スタッフが来園し保育中の子どもの様子を確認する機会もあり、課題や指導を共有するなどの連携にも取り組んでいる。職員が学ぶ機会としては、外部研修への参加を計画的に実施できるようにし、リーダーを中心に会議や勉強会につなげられるようにしている。</p>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<コメント>	
<p>・子どもの在園時間を考慮し、活動のバランスに配慮をしており、体を動かして遊んだり、絵本や机上遊びで静かに過ごしたり、食事やおやつ、休憩時間を設けながら子どもが一日をゆったりと安心して過ごすことができるように環境を整備している。</p> <p>・現在のところ、延長保育の利用者はなくスポット対応のみとなっているが、人数が少なくなっても淋しさを感じないように、個々に関わりながら好きな遊びに取り組めるようにしており、お迎えまでの時間を楽しく過ごせるように配慮をしている。また、延長保育では希望により、補食、夕食を提供している。引継ぎは、健康観察表を使用して受け入れから日中の様子までの申し送りをを行い、担任が不在の場合でも連絡事項等を確実に保護者に伝えられるように取り組んでいる。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
<コメント>	
<p>・毎年の取り組みとして2月頃に小学校教諭が来園する機会があり、そこで対面によって年長児クラスの担任と子どもに関する引継ぎを行うなどの連携が図られている。</p> <p>・年長児クラスでは、毎日の予定をホワイトボードで掲示してわかりやすく伝え、小学校に関する図鑑を準備するなど、生活について見通しがもてるような取り組みや、学校生活をイメージしやすいように、座学の時間を持つようにしている。就学に向けて感じる不安が期待に変わるように、楽しさを伝え、子どもが疑問に感じていることなどを見逃さないように努めている。学童保育に関する情報については、秋頃を目安に保護者に伝えるようにしている。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<コメント>	
<p>・子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの心身の健康状態を把握できるようにしており、朝の受け入れにおいては視診と口頭によって子どもの健康状態を確認している。体調等が心配な場合には、緊急連絡先を当日も保護者に確認するように努め、健康観察表で職員間で情報共有できるようにしている。</p> <p>・保健計画のなかに保健指導が位置付けられており、正しい手洗いについて知ることができるように、日々の保育の中で年齢に応じて援助しており、ブラックライトを使用して可視化できるような手洗い指導や、人権については「言ってよい言葉」「言われてうれしい言葉」などを具体的に子どもと話し合う時間を持ち、わかりやすく伝えることに取り組んでいる。温度・湿度によってこまめに衣服を調節するように働きかけているほか、災害対策の周知徹底を行いながら安全にも興味を持ち学ぶことができるようにしている。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<コメント>	
<p>・全園児を対象に、嘱託医の来園による年2回の健康診断と歯科検診を実施している。3歳児クラス対象の視聴覚検査を年1回実施している。健診結果は記録し保管するとともに、当日にウェブ連絡帳で配信し各家庭に伝えている。受診や再検査が必要な場合などには個別に伝えるとともに、必要に応じて継続的に保護者とやり取りしている。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
<コメント>	
<p>・アレルギー疾患のある子どもに対して、ガイドラインをもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。保護者とは毎月面談を行い献立を確認してもらうなど連携に努めており、園では栄養士の管理のもと、施設長と主任、看護師によるダブルチェック体制をとり、配膳や配置にも留意し、着替えも他児と一緒ににならないようになどの配慮をしている。幼児には、アレルギーについてわかりやすく伝えるようにしており、安全に食事をとることができるように努めている。</p>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事は人数に応じたスペースを確保し、幼児クラスはシールドを使用、配膳は職員が行うなどの感染症拡大防止対策を行い、幼児クラスでは、食事中の飛沫についても伝え、意識できるように援助している。配膳時には年齢に応じた適量を盛り付けているが、子どもの好き嫌いには無理強いすることなく柔軟に対応し、食べる意欲を大切に食事時間が楽しみになるように声かけの工夫をしている。 ・本社作成による食育計画をもとに、栄養士が年齢に応じた計画を立て担任と協力のもと食育活動を実施している。コロナ禍において活動内容に制限が設けられている中でも、おにぎり作り、栽培したトマトでのピザ作り、お餅つきと鏡餅作りなど、工夫を凝らしながら子どもが様々な体験ができるように援助している。また、乳児クラスの子どもたちも、食材に触れたり匂いを嗅いだり、少しずつ食に興味を持てるように援助している。 	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の献立では、行事食、郷土料理、多文化料理などを取り入れ、2週サイクルで提供している。毎月の誕生日ケーキは季節の果物やかわいいデコレーションで子どもの楽しみになるように取り組んでいる。栄養士は食事中にラウンドし子どもの喫食状況を確認したり、食材の説明を行ったりしているほか、月末のスタッフミーティングにおいて給食会議を行い、残食状況等などについて把握し共有できるようにしている。残食の状況を踏まえ、2回目の提供では見た目や食感などで食べやすくなるような工夫も行っている。 ・離乳食やその他子どもの食事に関して、保護者からの質問や相談に対応しており、アドバイスなどは継続的に行っている。また、玄関には食育に関する掲示や食事サンプルを展示し保護者に伝えている。乳児のお芋ほり、3歳児のお弁当ランチ、流しそうめん、パン作り（喫食せず）などの掲示により、取り組みの様子を確認することができる。 	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・家庭とは、ウェブ連絡帳において日常的な情報交換を行うしくみがあり、毎日の保育を伝えるとともに乳児では食事や睡眠時間なども細かく記入している。写真の添付も可能であるほか、動画配信では行事のライブ配信も実施し、コロナ禍においても保育の様子を見てもらえるように支援している。</p> <p>・個人面談は年1回実施し、全家庭が参加し子どもの成長について共有することができている。懇談会は年2回を予定しているが、コロナ禍においてはリモートで行うなどの工夫をしている。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	b
<p><コメント></p>	
<p>・日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くように努めており、面談期間以外でも希望があればいつでも相談に応じる体制がある。また、希望や必要に応じて担任だけでなく施設長や主任が対応するなどの支援も行っている。</p> <p>・年1回の保育参加はコロナ禍のため中止とし、感染状況を踏まえながら再開を目指している。動画配信では行事だけでなく、製作活動など通常の保育の様子も見てもらい、毎月アップできるように取り組んでいる。</p> <p>・コロナ禍において、朝の受け入れは玄関で対応しているため、混雑する時間帯もあり保護者との口頭によるやり取りが少なくなっていることは課題である。</p>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・朝の受け入れでは子ども一人ひとりの視診を行い、健康状態や子どもの様子を把握できるように努めており、保育中は着替えの際に全身を確認し、虐待等権利侵害の早期発見と対応にむけて取り組んでいる。現在のところ、園では対応中のケースはないが、気になることがあれば施設長と主任に報告のうえ全体共有を行い、また、必要に応じて関係機関と連携を行うしくみであり、職員へ周知している。年1回の園内研修でも虐待等権利侵害について学び理解を深める機会を設けている。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・日々の保育の振り返りは保育日誌、週月案にて行い、各ミーティングにおいても全体で検討し確認するしくみがあり、PDCAサイクルによって職員全体で保育の質の向上にむけて取り組んでいる。定期的な自己評価、セルフチェックを行なうことが定められおり、施設長との面談では自己評価について話し合い、保育実践の振り返りによって改善に取り組んでいる。</p>	